

サイコロ

ISHIKAWA MERIYASU MAGAZINE

Special Feature

“ カカト保湿カバーはじめました ”



Column

私と石川メリヤス

News

「いしめりマルシェ」を不定期開催中です



1.



2.



3.



4.

足首は温め、つま先は開放 カカト保湿カバーを新発売

「足が冷えてよく眠れないのでラブヒールを履いて寝ている。でも、温まりすぎて寝ているうちに脱いじゃうことがある」

ラブヒールは1993年の開発以来、30年間にも渡って売れ続けている石川メリヤスのロングセラー商品です。現在、温かい靴下は他にもたくさん出回っていますが、ラブヒールのカカト部分には保湿シートが縫い込まれているという大きな特徴があります。履いているだけでカカトがしっとりすべすべになるのです。

カカト部分には丸みがあり、普通のミシンでは保湿シートをうまく縫い込めません。無理に縫おうとするとシー

トが突っ張ったり破けたりしてしまいます。石川メリヤスは専用ミシンの開発をメーカーに依頼。内職スタッフにも縫い方を覚えてもらい、他社商品との差別化と大量生産を実現しました。今でも年間10万足以上を生産しています。

このラブヒールのファンの方から、冒頭のようなご意見をいただくことが増えています。とにかく温かい二重編み靴下のラブヒールでは布団の中で足が蒸れてしまうのかもしれない。なお、寝るときはつま先を自由にして放熱できるようにしたほうが体に良いとされています。

足首は温めてカカトを潤しつつ、つま先は自由にした靴下——。数年前からこの需要の高まりを少しずつ感じていました。以前、石川メリヤスは「カカトカバー」を試作し販売したことが

あります。綿、レーヨン、ナイロンというさらっとした素材で編んだ夏用の商品です。近年、同様のものをOEMで受注することも増えました。靴下の形だけではない機能的なレッグウェアが求められている時代なのでしょう。

このたび開発した「カカト保湿カバー」は、ラブヒールと同じ素材、すなわちアクリル、ナイロン、ウール、ポリウレタンで編んでいます。寒い冬でも暖房やカイロに頼ることなく、足首回りをしっかり温めて保湿するためです。小売店や問屋の方々から「ラブヒールとは着用シーンが重ならない商品で、買い足しにつながる」と好評をいただいています。

最後まで検討を重ねたのはパッケージです。ラブヒールと同じ場所に並べたときに違和感がなく、それでいて異

1. 就寝時やリラックス時におすすめ
足首を温めてカカトはしっかり保湿しながらつま先は開放。お風呂上がりにもおすすめです。
2. 天地はありません
カカトの前後で長さを変えてあるので、温めたい場所によって着用の向きを変えられます。
3. キューブ型のパッケージ
自立するので平置き用の売り場に向いていますが、フック穴を使って吊り下げでの陳列も可能です。
4. ラブヒールとの混載を想定
既存商品（ラブヒール）と混載での輸送を想定して、パッケージ2箱分のサイズを揃えています。

石川メリヤス オンラインショップ
<http://ishimeri.net>

<ラブヒール カカト保湿カバー>のページ
<https://ishimeri.net/?pid=177476885>



なる機能を持った商品であることをアピールしなければなりません。

最終的に落ち着いたのは、ラブヒールと同じデザインの箱を、厚みは倍にして高さを半分にしたキューブ型にすること。これならばラブヒールとの共通点と相違点は一目瞭然。自立するため、平置き用の売り場でも陳列しやすくなりました。縦に重ねると、ちょうどラブヒールの箱2つ分のサイズなので、まとめて送るときにも便利です。

カカト保湿カバーは足首回りを温めてカカトを潤す機能性商品です。「おうちで過ごす時間を省エネで温かく健康的に暮らしたい」と願う若い世代にも手に取っていただき、石川メリヤスの新たなロングセラー商品に育てていきたいと思っています。

私と 石川メリヤス

1962年設立（創業は1957年）の石川メリヤスは2022年に設立60周年を迎えました。長くお世話になってきた方にお話を伺うシリーズの第4回は静岡県の清水町にある望月繊維産業の望月仁さん。石川メリヤスの看板商品である作業用手袋「サイコロ印」を50年以上販売していただいています。

望月繊維産業の創業は昭和41年（1966年）です。当時は発電機メーカーの営業をしていた父が工業新聞の広告で手袋を見つけて、「手袋は商売になる」と2人の弟に相談。愛知県岡崎市のあたりに軍手の産地があるとの情報を得て、買ったばかりのスバル360で国道1号線を西に向かいました。まだ東名高速が開通前の頃です。

兄弟の中には丁稚奉公をしている者がいたので、3人の休みが合うのは元旦のみ。岡崎の公衆電話にあった電話帳で石川さんの会社を見つけ、元旦のお屠蘇を飲んでいるところに伺ったそうです。父たちはどの馬の骨かもわからない若者。でも、先々代の石川進さんは「元旦に押しかけてくるような人にだますような人はいない」と掛け売りで取引を受けてくださり、父たちは非常に嬉しかったようです。

父は私が4歳のときに亡くなり、静岡での商売を引き継いだ三男が養父として私を育ててくれました。父が亡くなる前に建てた事務所兼自宅のローンは養父が勤め先でもらっていた給料の5倍もあり、心が折れそうになったそうです。でも、高卒初任給が1万円ほどの時代には、軍手1ダースを450円で販売して相当儲かったとのこと。結果は楽勝だったと後日笑って話していたのを懐かしく思い出します。



現在は石川メリヤスのラブヒールとカカト保湿カバーをたくさん売ってくださっています。商品の後ろに立っているのが控えめな望月さんです。

News

森美術館開館 20 周年記念展の オリジナルグッズを製作協力しました

2024年3月31日まで森美術館で開催中の『私たちのエコロジー：地球という惑星を生きるために』。展覧会オリジナルグッズの制作を依頼いただきました。リサイクル繊維もしくは残糸（倉庫で眠っている糸）を使って軍手を作るというプロジェクトです。ショップ担当の方が石川メリヤスの工場までお越しになり、デザイナーさんとはオンラインでつなぎ、一緒に試作を重ねました。様々な色の残糸を混ぜているけれど引きで見るとアースカラーになる軍手など、私たちだけではできない発想です。おかげで残糸に新たな価値を付加した商品が生まれました。



「軍手＝GUNTE」は黄色、空色、
マルチカラー２種の計４色。
森美術館 ショップ53で販売中です。



森美術館開館 20 周年記念展

『私たちのエコロジー 地球という惑星を生きるために』

2023年10月18日（水）－ 2024年3月31日（日）

森美術館（六本木ヒルズ森タワー53F） ※会期中無休

<https://www.mori.art.museum/jp/exhibitions/eco/>

地元の方向けに事務所で自社製品を販売 「いしめりマルシェ」を不定期開催中です

規格外になったり編みキズが入ってしまったたりと「商品」にはならない製品が工場では必ず発生します。中には品質に問題ない製品もあり、廃棄するのはもったいない。そこで、編みキズは手作業で直し、事務所をお店に仕立てて、不定期での販売を始められています。近隣にお住まいの方に石川メリヤスを知ってもらう機会になり、私たちにとっては消費者の声を生で聞けるチャンスです。「こういう商品はないの？」といった貴重なご意見をいただけています。近くには素敵なカフェもあるので、週末のドライブやお散歩がてらにお立ち寄りください。



数カ月に一度のペースで開催しています。

日程などの詳細はインスタグラム

https://www.instagram.com/ishikawa_meriyasu/ をご覧ください。

Editorial Note

新しいことに挑戦しなければじり貧になってしまうという危機感には常にあります。ただし、何でもやればいいわけではありません。成果を出すためには、自社の強みを把握してモノづくりに生かすことが大切だ、と感じるこの頃です。ロングセラー商品のラブヒールはなぜ根強い人気があるのかを見つめ直した先に、カカト保湿カバーという新商品が生まれました。森美術館からのSDGs関連グッズ生産の依頼を受けたのも、リサイクル繊維を使った作業用手袋を作ることが石川メリヤスの祖業だからです。今後も「私たちが磨きをかけるべき強みは何か」を念頭に置き、小さな成長を積み重ねていきます。（大宮裕美）

Credit

編集・執筆・発行 石川メリヤス有限会社
Art direction & Design 相田貴子 (Consulting Design Tokyo)
写真 Consulting Design Tokyo ほか

2023 年 12 月 発行

冊子名『サイコロ』とは

「メーカーの基本は何よりも品質」。

初代社長の想いが込められた創業以来の作業用手袋

「サイコロ印」のブランド名から名付けました。

本冊子では、この精神を守りつつ、

石川メリヤスの「いま」をお伝えします。

商品問い合わせ&注文先

石川メリヤス有限会社

〒444-0515 愛知県西尾市吉良町富好新田紺屋堀 27-2

TEL 0563-32-0420 FAX 0563-32-3066

E-mail info@ishimeri.com URL <https://ishimeri.com>